



4 製麺機と格闘中のふたり



巻頭 特集

連続テレビ小説

まんぷく

舞台は池田へ！
ふたりの復活の物語

現在放送中の連続テレビ小説『まんぷく』。来る『池田編』に向けて
あらすじを振り返るとともに、制作統括の真鍋斎さんに話を聞いた。

3分でわかる!

すごろく風あらすじ

福ちゃん
(今井福子) 楽天家で働くことが大好きな3姉妹の末っ子。『大阪東洋ホテル』の新人電話交換手として働く

萬平さん
(立花萬平) 発明家にして実業家。発想力と行動力はピカイチだが、商才はあまりない

1938年
萬平の発明した幻灯機を、福子が姉の結婚式のために借りたことがふたりの出会い

1941年
式の当日、福子のスピーチに心打たれる萬平

1945年
福子の姉の病死や萬平が濡れ衣で逮捕されるなど苦難が続く。福子の母は結婚に猛反対

1947年
福子の手助けもあり、萬平は無罪放免に。晴れて『まんぷく』夫婦が誕生!

1957年
福子に励まされ立ち上がる萬平。インスタントラーメンの発明に挑むことを決意

1957年
徐々に世間も味方につき、ようやく釈放。萬平は信用組合の理事長職を頼まれる

1957年
東京に進出し好調だったが、今度は萬平が脱税容疑で逮捕!

1957年
進駐軍にあらぬ疑いをかけられ、塩作りをやむなく閉業。事業を『ダネイホン』一本に絞る

1957年
栄養失調の人々を救うため、新事業として栄養食品『ダネイホン』を開発

1957年
終戦後に泉大津へ移り、職のない若者を集めて製麺会社を作る

1957年
福子は弁護士探しに奔走

1957年
信用組合が財政破綻! 一家は全財産を失い、人生がふりだしに戻る...

1957年
福子は弁護士探しに奔走

1957年
東京に進出し好調だったが、今度は萬平が脱税容疑で逮捕!

1957年
進駐軍にあらぬ疑いをかけられ、塩作りをやむなく閉業。事業を『ダネイホン』一本に絞る

1957年
栄養失調の人々を救うため、新事業として栄養食品『ダネイホン』を開発

1957年
終戦後に泉大津へ移り、職のない若者を集めて製麺会社を作る

Quiz

萬平は池田の自宅で研究に打ち込むが失敗続き。そんな時、福子が料理する①②③④を目にしたことで事態が動き出す。さて、その食べ物は? 答えは表紙をチェック!

TO BE CONTINUED...

(実) 話をもとに、大胆な脚色で生まれたヒロイン

安藤百福・仁子夫妻の生涯がベースとなっている連続テレビ小説『まんぷく』。その舞台が1月からいよいよ池田に移る。制作統括の真鍋斎さんは「モデルとなる人物を探そうちに思いついたのが安藤夫妻だった。なぜ今までやらなかったのか、と思うほどの題材でした」と話す。小誌10月号でも特集したように、百福氏は48歳で世界初のインスタントラーメンを発明した偉人だ。池田市にある自宅の庭に小さな小屋を建て、研究に打ち込んだ逸話はよく知られている。しかしそれまでの波乱に満ちた半生や、苦楽をともした家族にはなかなかスポットが当たってこなかった。

個性的でバイタリティある



NHK 大阪放送局
『まんぷく』制作統括
真鍋 斎 さん



2 濡れ衣で留置場に入れられた萬平(第15回)



戦後すぐの頃、食の大切さをふたりに印象づけたラーメン屋台の行列シーン(第25回)

類や縮れ具合、汁や具まで細かく作りこんでいるそう。他の食べ物も当時の食文化や経済状況を考慮したものだ。食はドラマの大切なテーマのひとつ。料理へのこだわりは徹底している。

風景描写も見逃せない。ちなみに萬平がインスタントラーメンの材料を買い集めるお店や、麺作りを依頼する製麺所が並ぶ商店街の名前は「池田駅前商店街」。ドラマに登場するのは架空の場所だが、池田の景色と重ねて想像するのは地元を知人だけの楽しみだ。

「まんぷく」放送情報

<総合>
8:00 ~ 8:15
月~土 12:45 ~ 13:00(再)

<BSプレミアム>
7:30 ~ 7:45
月~土 23:30 ~ 23:45(再)
土 9:30 ~ 11:00[1週間分]

(物) 語の終盤にはあの大発明も登場

インスタントラーメンの開発は物語のクライマックスだが、ドラマの盛り上がりはまだ

「まんぷく」に登場したラーメンについては、編集後記P18もチェック!

取材協力
NHK 大阪放送局